

第8回旅を楽しむ会旅行 (H29/11/1~3)

<紅葉の山形路と慶応先端科学研究所視察旅行>

岡川栄司 (41 商)

月日は百代の過客にして、行きかふ年もまた旅人なり。

有名な奥の細道の書き出しであるが、杉並三田会は創立25周年を迎え会員はいわば慶応義塾の過客であり行きかう旅人でもある。

平成29年11月1日、第8回目の旅行は紅葉盛りの山形路に向かう。

季節外れの台風も去り穏やかな旅日和の6時30分東京駅に集結。集合場所が難解なので心配されたが遅刻はない。無念であろうが発熱で参加できない人が一人。7時12分発のつばさ123号は静かに北に向かって動き出す。事前説明会で、顔なじみになった男女15名、現地合流組を加え総勢17名の旅行となる。

東北地方に入ると、遠くの高い山は既に雪化粧、麓の山々は紅葉の盛りを迎え、秋錦の景色が列車内に飛び込む。新庄駅に10時54分到着。我々を迎えたバスはこれから3日間ゆったり腰掛けできる大型サイズだ。

11時10分新庄駅前を出発、出羽の国(山形)で最も古い創業1593年の小屋酒造に立ち寄り、利き酒で道中の酒を選ぶ。大吟醸から本格焼酎まで多種、絹、花羽陽、最上川の銘柄が知られているが、女性にも合う中口の純米吟醸酒、出羽陽を選定。

最上川ライン下りは戸村古口港から始まる。12時20分に乗船、小屋酒造の利き酒で食前酒は済ませているのですぐに昼弁当、ベテラン船頭の語り口は軽妙で美声、兩岸に広がるピーク直前の紅葉、瀬の流れはきらり輝き、濁った水は流れが速い。13時40分草薙港で下船。

14時40分鶴岡市慶応先端生命科学研究所に到着。出迎えてくれたのは慶応義塾大学先端科学研究所の冨田勝所長、鶴岡市役所の永壽祥司企画課長(塾員)、塾職員。早速、冨田所長が先頭に立ち我々を案内。ビデオで説明を受ける。最先端のバイオテクノロジーを活かした新しい生命科学の研究、メタボロームの解析と診断技術の確立、創薬開発、次代の蜘蛛由来の繊維の開発、計測器類開発など、強固なクラスター集団の形成を目指している。研究施設を建設中。地元の高校や地元企業の協力による産学協同事業の実現を目指している。既に塾員の起業家が誕生、シリコンバレー鶴岡版ともいえる。終始懇切丁寧に説明を受け、工学部卒からは専門的な質疑が飛び出す。外に出ると水平線の雲が厚くて日本海の夕陽は眺められないが2時間にわたる学習に充実感が漂う。

評判の湯野浜温泉「游水亭いさごや」に17時10分到着。接客、造り、温泉風呂、料理、すべてに満足。館長の父親と叔父が塾員と知り、美酒の差し入れを受けてうれしい夕食となる。食べきれないほどの料理が出される。出羽陽で二次会の夜を迎える。気持ち良い湯に三度の入浴。

1 1月2日晴れ、8時30分出発。かつては人面魚で名を馳せた善宝寺拝観、本殿、古い五重塔を観て、門前の老夫婦の店に立ち寄る。素朴で味のある二人のトークとほんまのゆべしのふるまいを受けて気が付いたらお土産に購入していた。

9時20分、クラゲで有名な鶴岡加茂水族館到着。大小様々な水槽にクラゲを展示、数ミリから数メートルまでクラゲの大きさ種類の多さに驚嘆、クラゲの話と給餌ショー、可愛いあしかショーを楽しむ。明治時代の洋館風の致道博物館、建物と古民家、北前船、江戸時代の絵画を見る。

1 1時40分、自家製無農薬野菜を使った田舎家庭料理店「菜あ」で昼食、古民家風の食堂で座るのはつらいが素朴な味は口に合う。

1 2時30分、羽黒山五重塔に向かう。建立600年を超える国宝の五重塔は、橋を渡り少し上ったところに、杉木立で苔むせた色で建っている。塔を囲む爺杉ら巨木群は落雷からの守り神々。あたりの荘厳な雰囲気は圧倒される。

1 4時20分庭のきれいな玉川（ぎょくせん）寺。住職から説明を受ける。緑と紅葉を借景に庭石を程よく配置、四季を楽しむ花と植木の庭は美しい。

1 5時10分、これから長距離を走る。青空で前日より紅葉が鮮やかに見える最上川沿いを遡り、白糸の滝展望レストラン前で休憩、色鮮やかな山並みを割って落下する白い飛沫は光り輝き見事な風景である。山道を走り続け、バスガイドの話に眠りを堪えて、銀山温泉「瀧と蕎麦の宿 瀧見館」に到着したのは17時10分。食べきれない程の数々の料理がでる。ゆっくり堪能する。21時15分に送迎バスで大正ロマンの温泉街に出向く。さほど寒くない、人力車がようやく通る道幅、雲が出て時折見える朧月、ほの暗いガス灯に優しく包まれる温泉街をほろ酔い心地でぶらぶら歩く、鮭が遡上する川、旅館街のど真ん中を瀬音立てながら流れている。部屋に戻り同衾者と静かに飲み、短く温泉に浸り睡眠。

1 1月3日、朝から快晴、朝食前に40分の散歩、昨夜の温泉街を徒歩で下る。紅葉の沢、滝が勢いよく落ちさわやかで風情がよい。

9時ジャスト、瀧見館を出発、天童将棋資料館で古い碁盤を観て、フルーツ畑の道を進み山寺に着く。ゆっくり奥宮まで登り、五大堂で眺望を堪能、険しい崖に建つ祠は厳しい修行の場、厳冬期はとても想像できない。予定より30分以上も早く下山した元気な仲間が山寺修行を果たしビールで喉を潤している。

1 2時50分イズミヤ食堂で昼食、山形名物の芋煮は何回食したのだろうか、ここのは柔らかくて旨い。予定の紅葉川溪谷ハイキングは道路の混雑と紅葉のピークアウト情報で取りやめになる。

1 4時10分芭蕉記念館で芭蕉直筆の書に接する。紅葉黄葉真っ盛りの山形市運動記念公園に30分立ち寄る。

1 6時10分から2時間近くを山形駅付近で自由散策する。地元市場で農産物土産物を買ってホテルでお茶を飲む。すっかり暗くなった山形市内に満月が出ている。18時4分山

形駅からつばさ156号で東京に戻る。列車内は語り続けるもの眠り込むもの、様々で、20時48分全員無事東京駅に到着、そのまま解散する。

バスガイドさんがこの秋では一番、最高の日和続きですねと賞賛されたように、紅葉の最盛期に明るく暖かい太陽を浴びながら楽しい旅ができました。慶応の塾員はどこに行っても常に親切に我々を迎えていただきまして深く感謝いたします。今回の旅行は殆ど手作りで、近畿日本個人旅行社に企画募集型で手配を依頼したツアーです。旅行ではけが人や病人もなく好天に恵まれ続けているのは、参加者の心がけのよさが幸運をもたらしているものと確信しています。ご協力ありがとうございました。